

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、市民の消費生活に対する意識や意見、実態等を統計的手法によって把握・分析し、次期消費生活基本計画・消費者教育推進計画策定の基礎資料を得るとともに、今後の施策に反映することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域 八王子市内全域
- (2) 調査対象 市内在住の18歳以上の個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送配布、郵送回収
- (6) 調査期間 令和2年10月27日～11月15日
- (7) 調査機関 株式会社エスピー研

3. 調査項目

- (1) 消費生活に関する関心・行動について
- (2) 商品・サービスに関する消費生活トラブルについて
- (3) 消費者教育と消費生活情報（啓発）について
- (4) 今後の消費生活問題への取り組みについて

4. 回収結果

- (1) 標本数 3,000件
- (2) 有効回収数 1,547件
- (3) 有効回収率 51.6%

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、n (件数) として表示した。その比率は、n (件数) を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) クロス集計による分析では、性別や年齢などの分析項目の質問に無回答である回答者の集計結果は図表中に表示していないが、これらの回答結果は図表中の「全体」には含まれる。したがって、図表中に示した分析項目すべてのn (件数) を合計しても、全体のn (件数) と一致しない場合がある。
- (6) 調査結果の分析においては、n (件数) が20件を下回る場合には、参考値とみなし該当属性に対するコメントは控えている。
- (7) 質問における選択肢を統合し、『 』を用いて記述している場合がある。なお、この場合の比率は、個々の選択肢の比率の単純合計である。
 (例)「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を統合して『関心がある (計)』

6. 標本誤差

標本誤差 (サンプル誤差) はおおよそ以下のとおりである。

単純無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数 (n)、および回答比率 (P) によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数 (サンプル数)
 P = 回答比率

例えば、ある設問の回答者数が1,547で、その設問の「関心がある」の回答比率が20%である場合、標本誤差は20%を中心に±2.03%の範囲内となり、標本誤差を踏まえた回答比率は17.97%～22.03%の間であるとみることができる。同様に計算した標本誤差の早見表を以下に示す。

| 回答比率 (P) 基数 (n) | 5%または 95%前後 | 10%または 90%前後 | 20%または 80%前後 | 30%または 70%前後 | 40%または 60%前後 | 50%前後 |
|--------------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------|
| 1,547 | ± 1.11 | ± 1.53 | ± 2.03 | ± 2.33 | ± 2.49 | ± 2.54 |
| 1,200 | ± 1.26 | ± 1.73 | ± 2.31 | ± 2.65 | ± 2.83 | ± 2.89 |
| 1,000 | ± 1.38 | ± 1.90 | ± 2.53 | ± 2.90 | ± 3.10 | ± 3.16 |
| 700 | ± 1.65 | ± 2.27 | ± 3.02 | ± 3.46 | ± 3.70 | ± 3.78 |
| 500 | ± 1.95 | ± 2.68 | ± 3.58 | ± 4.10 | ± 4.38 | ± 4.47 |
| 100 | ± 4.36 | ± 6.00 | ± 8.00 | ± 9.17 | ± 9.80 | ±10.00 |

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は95%である。